



本日の
プログラム

(移動夜間例会) 職場訪問～創立65周年キックオフ例会～

18:00～ (於) サッポロ・ノルベサ・ビール園

新会員卓話 本間裕美 会員

女性初の会員として入会し、約10か月が経過しようとしています。この間、多様性について意識することが多かったため、本日は、自己紹介のあと、ロータリーの多様性について、私なりの視点からお話させていただきたいと思います。

私は、新潟県胎内市(旧・中条町)の出身です。高校卒業まで新潟県で過ごし、大学進学を機に東京で一人暮らしを始めました。大学卒業後、労働省(現・厚生労働省)に勤務しましたが、弁護士になろうと決意し、厚生労働省を退職、ロースクールに入学しました。司法試験合格後、札幌市内の法律事務所での勤務を経て、2018年、みらい共同法律事務所を設立しました。

私の職業人生は労働問題とともにあります。職業人生のスタートは労働省。8年間、労働法規を作って運用する立場にいました。札幌市内の法律事務所に勤務していたときは、厚生労働省出身ということもあり、労働問題を担当。6年間にわたり、多数ある顧問先の労働相談を一手に引き受けていました。現在は、会社側の労働問題に特化し、労働トラブルの予防と早期解決に力を入れています。

また、2022年にハラスメント相談窓口と内部通報窓口を代行する株式会社を設立し、代表取締役就任しました。株式会社でも、トラブルの予防と早期解決の仕組み作りをサポートしています。

弁護士として、これまで多くの会合や会議に出席してきました。結果として、参加メンバーのうち女性が私ひとりだったという経験は何度もあります。しかし、初めから、「女性初」の立場で、大きな組織に加入するというのは、今回が初めてです。

よく考えてみると、これまで「女性初」がなかったのは、私の先を生き残っている女性たちが、活躍の場を広げてくれたからに他なりません。50歳を迎えようとするにあたり、そろそろ、私も、その役目を負うべきではないかと考え、思い切って、入会することにしました。

入会後は、会長を始め、会員の皆さまがいつも気にかけてくださるので、いつも楽しく参加させていただいています。この場を借りて、会員の皆さまに感謝申し上げます。

本日出席なさっている私以外の会員は、全て男性ですが、男性といっても、皆さん異なる個性をお持ちのようです。また、全員が同じ考えではないし、同じ価値

観ではないと思います。入会して感じたのは、その豊かな個性を尊重し、違いを楽しみ、力に変えながら、活動しているということでした。

私は女性ですが、女性の代表ではありません。全ての女性が、私と同じ考えではありませんし、同じ価値観を持っているわけではありませんので、私の発言が、女性の大半の考えということもありません。私の後に続く女性会員は、私とは異なる個性を発揮して、活躍して下さることでしょう。

弦楽器だけで構成されるカルテットの音色も美しいですが、ここに金管楽器・木管楽器・打楽器・ピアノなどが加わり、オーケストラになると、表現できる楽曲も多くなり、厚みのある音楽を奏でることが可能になります。

単一の楽器、同種の楽器だけではなく、多種多様な楽器を組み合わせるオーケストラが、私がイメージするロータリーです。年齢、性別、国籍、肌の色、社会的な立場と関係なく、それぞれの「個性」を生かしながら一緒に活動していくこと、それがロータリーの多様性なのではないか、と考えています。

会長という指揮者のもと、会員が、年齢、性別、国籍、肌の色、社会的な立場などに関係なく、個性を生かし、切磋琢磨し、協力し合い、得意な楽器を演奏しながら、多彩な音楽を奏でていく、オーケストラのようなロータリークラブ。その一員として、個性を生かして、札幌東ロータリークラブに貢献していきたいと思っています。



■本日のロータリーソング

なし

2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

「世界に希望を生み出そう」

国際ロータリー会長：ゴードンR.マッキナリー

